

要約カードをつくろう

小5／中心になる語を えらんで、要約カードに 書き入れましょう

1 / 5

なまえ

ひづけ

こうほの語はどれも本文に1回だけ出てきます。この中から中心になる語を3つえらび、要約カードの□に左から順に、本文の書き方のまま書き入れましょう。

森の落ち葉のゆくえを 読んで、答えましょう。

- ① 秋が深まると、木の葉が色を変えて地面に散る。
- ② 地面に積もったその葉を落ち葉とよぶ。
- ③ その下まで日の光はほとんど入らない。
- ④ そのため、地面の温度が急に上がったり下がったりしにくい。
- ⑤ 葉が積もった下の地面はしめり気が多く、あたたかい。
- ⑥ 葉を食べる生き物にとって、そこは冬をこすのに都合がよい。
- ⑦ そこでダンゴムシやミミズが葉を食べ、細かくくだく。
- ⑧ 土の中の生き物が、細かくなった葉をさらに分解する。
- ⑨ この働きで、葉の中のものが水にとけやすい形に変わる。
- ⑩ こうしてできた養分が、雨水とともに土の深いところへ運ばれる。
- ⑪ 木の根がそれをすい上げ、新しい葉や実を作る。
- ⑫ 風がふくと、葉が同じ場所に集まって厚く積もる。
- ⑬ 分解が進む速さが、気温や水の量で変わる。
- ⑭ たおれた木も、同じように長い時間をかけてくずれていく。
- ⑮ たとえば、公園のすみに葉を集めておくと、次の年には形がくずれている。
- ⑯ 森の中でこのはたらきが毎年くり返され、土が豊かに保たれる。

こうほ（この中から3つえらんで□に書く）

秋

落ち葉

公園

土の中の生き物

養分

木の根

要約カード

□ は、□ によって、□

になる。

□には、こうほからえらんだ語を左から順に入れる。

この要約に入れなくてよい文のばんごう

「たとえば」で はじまる 文は、くわしい 例や つけ足しです。

いちごドリルプリント

つづきの無料プリント
「読解プリント」のプリント一覧がひらきます



要約カードをつくろう

小5／こうほの 中から、中心になる語を 3つ えらびましょう

2 / 5

なまえ

ひづけ

こうほの 語は どれも 本文に 1回だけ 出て きます。この 中から 中心になる語を 3つ えらび、要約カードの □ に 左から 順に 書き入れましょう。

山の岩と川のすなを 読んで、答えましょう。

- ① 山の高いところを見上げると、ごつごつした地はだが目に入る。
- ② そこにある 岩が、少しずつ くずれて いく。
- ③ しみこんだ水が、こおったりとけたりをくり返す。
- ④ 水がこおるとき、体積が増えて内側からおし広げる。
- ⑤ その力で、表面に細かいひびわれができる。
- ⑥ ひびわれた部分がくずれ、下へ落ちる。
- ⑦ 落ちたかけらが、谷を流れる川に運ばれる。
- ⑧ 川の流れが、かけらどうしをぶつけ合わせる。
- ⑨ ぶつかるたびにかけらの角が取れ、形が小さく丸くなる。
- ⑩ 水の量が増えるときほど、大きなかけらまで動く。
- ⑪ 長い年月をかけて、かけらがすなに変わる。
- ⑫ 川の下流ほど、つぶの大きさがそろってくる。
- ⑬ たとえば、海岸のこまかい石はこうしてできたものが多い。
- ⑭ 流れがゆるやかな所ほど、小さいつぶが遠くまで運ばれる。
- ⑮ こうしてできた地面が、植物の育つ土台をつくる。
- ⑯ 大地の形が、長い年月の間に少しずつ作りかえられている。

こうほ（この 中から 3つ えらんで □ に 書く）

海岸

川の流れ

すな

岩

土台

体積

要約カード

は、 によって、 になる。

□には、こうほから えらんだ 語を 左から 順に 入れる。

この 要約に 入れなくてよい 文の ばんごう

「たとえば」で はじまる 文は、くわしい 例や つけ足しです。

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「読解プリント」のプリント一覧がひらきます



要約カードをつくろう

小5／□が 4つ あります。こうほから 4つ えらびましょう

3 / 5

なまえ

ひづけ

こうほの 語は どれも 本文に 1回だけ 出て きます。この 紙の 要約カードは □が 4つ あります。こうほから 4つ えらび、左から 順に 入れて 1文に しましょう。

ねん土から焼き物へを 読んで、答えましょう。

- ① 地面をほると、ねばり気のある土が出てくることがある。
- ② このような土をねん土とよぶ。
- ③ 水でこねて、作りたい形にする。
- ④ こねるほど、中の空気がぬけて、しっかりした生地になる。
- ⑤ 作った形を日かげでゆっくりかわかす。
- ⑥ 急にかわかすと、ひびわれができてしまう。
- ⑦ 十分にかわくまで、何日もかかることがある。
- ⑧ かわいたものを、かまの中にならべる。
- ⑨ すきまを空けて置かないと、中まで温まらない。
- ⑩ かまの中が、千度をこえる高温になる。
- ⑪ このはたらきで、土のつぶどうしがとけて結びつく。
- ⑫ 冷えると、水を通さない固いつくりになる。
- ⑬ 表面にうわぐすりをかけると、つやが出る。
- ⑭ こうしてできたものを焼き物という。
- ⑮ たとえば、茶わんや皿は昔からこの方法で作られてきた。
- ⑯ 同じ土でも、やき方で色や手ざわりが変わる。
- ⑰ 土から生まれた食器が、今も毎日使われている。

こうほ（この 中から 4つ えらんで □ に 書く）

ひびわれ

茶わん

焼き物

ねん土

食器

皿

つぶ

高温

要約カード

□ は、□ によって □ になり、
□ として使われる。

□には、こうほから えらんだ 語を 左から 順に 入れる。

この 要約に 入れなくてよい 文の ばんごう

「たとえば」で はじまる 文は、くわしい 例や つけ足しです。

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「読解プリント」のプリント一覧がひらきます



要約カードをつくろう

小5／要約に 入れなくてよい 文が 2つ あります

4 / 5

なまえ

ひづけ

こうほの 語は どれも 本文に 1回だけ 出て きます。要約を 作った あと、この 要約に 入れなくてよい 文の ばんごうを 2つ 書きましょう。

木から炭へを 読んで、答えましょう。

- ① 黒くて軽い燃料を作る仕事が、山の近くにあった。
- ② 山から切り出した木を、同じ長さにそろえる。
- ③ そろえた材を、土や石で作ったかまにすきまなく積む。
- ④ すきまが多いと、中の温度が上がりにくい。
- ⑤ 積み終わったら、入り口をふさぐ。
- ⑥ 空気がたくさん入ると、すべてもえて白いはいになってしまう。
- ⑦ 少しだけ口を開け、下から火を入れる。
- ⑧ 中の材が、外側から少しずつ熱せられる。
- ⑨ 空気が足りないので、材はもえきらずに黒く変わる。
- ⑩ このむし焼きが、水分と気体を外へ追い出す。
- ⑪ 出ていく気体は白いけむりとなって立ちのぼる。
- ⑫ けむりの色がすき通ってきたら、火を止める合図である。
- ⑬ 口を土でふさぎ、そのまま何日も冷ます。
- ⑭ 残ったものが、軽くて固い炭に変わる。
- ⑮ これが、けむりを出さずに長い時間もえる。
- ⑯ たとえば、昔の家では冬のだんぼうに用いられていた。
- ⑰ また、においや色を取る性質もあり、水をきれいにする。
- ⑱ 作るときの温度で、固さや火のつきやすさが変わる。
- ⑲ よくかわいた材を使うほど、質のよいものができる。
- ⑳ 森から生まれた黒いかたまりが、くらしを支えてきた。

こうほ（この 中から 3つ えらんで □ に 書く）

水分

かま

性質

むし焼き

はい

木

炭

要約カード

は、 によって、 になる。

□には、こうほから えらんだ 語を 左から 順に 入れる。

この 要約に 入れなくてよい 文の ばんごう（2つ・じゅんぶどう）

「たとえば」「また」で はじまる 文は、くわしい 例や つけ足しです。

🔍 いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「読解プリント」のプリント一覧がひらきます



要約カードをつくろう

小5/口はありません。こうほを見て、要約を自分で1文に書きましょう

5 / 5

なまえ

ひづけ

こうほの語はどれも本文に1回だけ出てきます。この紙は要約カードの口がありません。下の型に合わせて、要約を自分で1文に書きましょう。

海の水から塩へを読んで、答えましょう。

- ① 海べで水をなめると、しょっぱい味がする。
- ② その味のもとが、水にとけているものである。
- ③ 海水を浅い池に引き入れ、広げてためる。
- ④ 池の底は平らにならし、深さをそろえておく。
- ⑤ 風にさらすと、水が少しずつ減っていく。
- ⑥ 水だけが空気中へ出ていき、とけていたものが残る。
- ⑦ 日光が、池の水をどんどん減らしていく。
- ⑧ 風が強い日ほど、水の減り方が早くなる。
- ⑨ やがて白いつぶが底にしずみ始める。
- ⑩ つぶを集めてかわかすと、料理に使う塩ができる。
- ⑪ にがりおよび液も、このときに取り出される。
- ⑫ たとえば、しめった日が続くと作業は進まない。
- ⑬ 雨がふれば、ためた水はうすまってしまう。
- ⑭ 晴れた日が多い土地ほど、この方法に向いている。
- ⑮ 海に面した平らな所が、昔から作り場に選ばれてきた。
- ⑯ きかいを使う今の工場でも、もとの考え方は同じである。
- ⑰ 海めぐみが、毎日の食たくに運ばれている。

こうほ（この中から3つえらんで1文を書く）

雨

塩

液

土地

工場

海水

日光

めぐみ

要約を、下の型に合わせて1文で書きましょう。

型（ ）は、（ ）によって、（ ）になる。

この要約に入れなくてよい文のばんごう

「たとえば」で始まる文は、くわしい例やつけ足しです。

いちごドリルプリント

つづきの無料プリント
「読解プリント」のプリント一覧がひらきます



要約カードをつくろう【こたえ】

小5／中心になる語を えらんで、要約カードに 書き入れましょう

1 / 5

なまえ

ひづけ

赤い線を ひいた 文に、ぬき出す語が 1回だけ 出てきます。
書き入れた語が 本文と 同じ書き方（送りがなも同じ）なら ○。

森の落ち葉のゆくえ

入れなくてよい 文 … ⑮

- ① 秋が深まると、木の葉が色を変えて地面に散る。
- ② 地面に積もったその葉を落ち葉とよぶ。
- ③ その下まで日の光はほとんど入らない。
- ④ そのため、地面の温度が急に上がったり下がったりしにくい。
- ⑤ 葉が積もった下の地面はしめり気が多く、あたたかい。
- ⑥ 葉を食べる生き物にとって、そこは冬をこすのに都合がよい。
- ⑦ そこでダンゴムシやミミズが葉を食べ、細かくくだく。
- ⑧ 土の中の生き物が、細かくなった葉をさらに分解する。
- ⑨ この働きで、葉の中のものが水にとけやすい形に変わる。
- ⑩ こうしてできた養分が、雨水とともに土の深いところへ運ばれる。
- ⑪ 木の根がそれをすい上げ、新しい葉や実を作る。
- ⑫ 風がふくと、葉が同じ場所に集まって厚く積もる。
- ⑬ 分解が進む速さが、気温や水の量で変わる。
- ⑭ たおれた木も、同じように長い時間をかけてくずれていく。
- ⑮ たとえば、公園のすみに葉を集めておくと、次の年には形がくずれている。
- ⑯ 森の中でこのはたらきが毎年くり返され、土が豊かに保たれる。

要約カード

落ち葉

は、

土の中の生き物

によって、

養分

になる。

□には、こうほから えらんだ 語を 左から 順に 入れる。

できあがる要約 … 落ち葉は、土の中の生き物によって、養分になる。

⑮は、しくみを くわしく 言いかえたり つけ足したり している 文だから。

まるつけの ポイント

3つの語が そろって 入っていれば ○。順番が ちがうと ×。

言いかえた語（「落ち葉」を「葉」など）は ×。本文の 書き方どおりに 写す。

⑮のように「たとえば」で はじまる 文は、くわしい 例や つけ足しなので 要約に 入れない。

要約カードをつくろう【こたえ】

小5／こうほの 中から、中心になる語を 3つ えらびましょう

2 / 5

なまえ

ひづけ

赤い線を ひいた 文に、ぬき出す語が 1回だけ 出てきます。
書き入れた語が 本文と 同じ書き方（送りがなも同じ）なら ○。

山の岩と川のすな

入れなくてよい 文 … ⑬

- ① 山の高いところを見上げると、ごつごつした地はだが目に入る。
- ② そこに ある 岩が、少しずつ くずれて いく。
- ③ しみこんだ水が、こおったりとけたりをくり返す。
- ④ 水がこおるとき、体積が増えて内側からおし広げる。
- ⑤ その力で、表面に細かいひびわれができる。
- ⑥ ひびわれた部分がくずれ、下へ落ちる。
- ⑦ 落ちたかけらが、谷を流れる川に運ばれる。
- ⑧ 川の流れが、かけらどうしをぶつけ合わせる。
- ⑨ ぶつかるたびにかけらの角が取れ、形が小さく丸くなる。
- ⑩ 水の量が増えるときほど、大きなかけらまで動く。
- ⑪ 長い年月をかけて、かけらがすなに変わる。
- ⑫ 川の下流ほど、つぶの大きさがそろってくる。
- ⑬ たとえば、海岸のこまかい石はこうしてできたものが多い。
- ⑭ 流れがゆるやかな所ほど、小さいつぶが遠くまで運ばれる。
- ⑮ こうしてできた地面が、植物の育つ土台をつくる。
- ⑯ 大地の形が、長い年月の間に少しずつ作りかえられている。

要約カード

岩

は、

川の流れ

によって、

すな

になる。

□には、こうほから えらんだ 語を 左から 順に 入れる。

できあがる要約 … 岩は、川の流れによって、すなになる。

⑬は、しくみを くわしく 言いかえたり つけ足したり している 文だから。

まるつけの ポイント

3つの語が そろって 入っていれば ○。順番が ちがうと ×。

言いかえた語（「岩」を「石」など）は ×。本文の 書き方どおりに 写す。

⑬のように「たとえば」で はじまる 文は、くわしい 例や つけ足しなので 要約に 入れない。

要約カードをつくろう【こたえ】

小5／□が 4つ あります。こうほから 4つ えらびましょう

3 / 5

なまえ

ひづけ

赤い線を ひいた 文に、ぬき出す語が 1回だけ 出てきます。
書き入れた語が 本文と 同じ書き方（送りがなも同じ）なら ○。

ねん土から焼き物へ

入れなくてよい 文 … ⑮

- ① 地面をほると、ねばり気のある土が出てくることがある。
- ② このような土をねん土とよぶ。
- ③ 水でこねて、作りたい形にする。
- ④ こねるほど、中の空気がぬけて、しっかりした生地になる。
- ⑤ 作った形を日かげでゆっくりかわかす。
- ⑥ 急にかわかすと、ひびわれができてしまう。
- ⑦ 十分にかわくまで、何日もかかることがある。
- ⑧ かわいたものを、かまの中にならべる。
- ⑨ すきまを空けて置かないと、中まで温まらない。
- ⑩ かまの中が、千度をこえる高温になる。
- ⑪ このはたらきで、土のつぶどうしがとけて結びつく。
- ⑫ 冷えると、水を通さない固いつくりになる。
- ⑬ 表面にうわぐすりをかけると、つやが出る。
- ⑭ こうしてできたものを焼き物という。
- ⑮ たとえば、茶わんや皿は昔からこの方法で作られてきた。
- ⑯ 同じ土でも、やき方で色や手ざわりが変わる。
- ⑰ 土から生まれた食器が、今も毎日使われている。

要約カード

ねん土

は、

高温

によって

焼き物

になり、

食器

として使われる。

□には、こうほから えらんだ 語を 左から 順に 入れる。

できあがる要約 … ねん土は、高温によって焼き物になり、食器として使われる。

⑮は、しくみを くわしく 言いかえたり つけ足したり している 文だから。

まるつけの ポイント

4つの語が そろって 入っていれば ○。順番が ちがうと ×。

言いかえた語（「ねん土」を「土」など）は ×。本文の 書き方どおりに 写す。

⑮のように「たとえば」で はじまる 文は、くわしい 例や つけ足しなので 要約に 入れない。

要約カードをつくろう【こたえ】

小5／要約に 入れなくてよい 文が 2つ あります

4 / 5

なまえ

ひづけ

赤い線を ひいた 文に、ぬき出す語が 1回だけ 出てきます。
書き入れた語が 本文と 同じ書き方（送りがなも同じ）なら ○。

木から炭へ

入れなくてよい 文 … ⑯・⑰

- ① 黒くて軽い燃料を作る仕事が、山の近くにあった。
- ② 山から切り出した木を、同じ長さにそろえる。
- ③ そろえた材を、土や石で作ったかまにすきまなく積む。
- ④ すきまが多いと、中の温度が上がりにくい。
- ⑤ 積み終わったら、入り口をふさぐ。
- ⑥ 空気がたくさん入ると、すべてもえて白いはいになってしまう。
- ⑦ 少しだけ口を開け、下から火を入れる。
- ⑧ 中の材が、外側から少しずつ熱せられる。
- ⑨ 空気が足りないので、材はもえきらずに黒く変わる。
- ⑩ このむし焼きが、水分と気体を外へ追い出す。
- ⑪ 出ていく気体は白いけむりとなって立ちのぼる。
- ⑫ けむりの色がすき通ってきたら、火を止める合図である。
- ⑬ 口を土でふさぎ、そのまま何日も冷ます。
- ⑭ 残ったものが、軽くて固い炭に変わる。
- ⑮ これが、けむりを出さずに長い時間もえる。
- ⑯ たとえば、昔の家では冬のだんぼうに用いられていた。
- ⑰ また、においや色を取る性質もあり、水をきれいにする。
- ⑱ 作るときの温度で、固さや火のつきやすさが変わる。
- ⑲ よくかわいた材を使うほど、質のよいものができる。
- ⑳ 森から生まれた黒いかたまりが、くらしを支えてきた。

要約カード

木

は、

むし焼き

によって、

炭

になる。

□には、こうほから えらんだ 語を 左から 順に 入れる。

できあがる要約 … 木は、むし焼きによって、炭になる。

⑯・⑰は、しくみを くわしく 言いかえたり つけ足したり している 文だから。

まるつけの ポイント

3つの語が そろって 入っていれば ○。順番が ちがうと ×。

言いかえた語（「木」を「材」など）は ×。本文の 書き方どおりに 写す。

⑯・⑰のように「たとえば」「また」で はじまる 文は、くわしい 例や つけ足しなので 要約に 入れない。
入れなくてよい 文が 2つの ときは、書く じゅんばんが ちがっても 正かい。

要約カードをつくろう【こたえ】

小5/口はありません。こうほを 見て、要約を 自分で 1文に 書きましょう

5 / 5

なまえ

ひづけ

赤い線を ひいた 文に、ぬき出す語が 1回だけ 出てきます。
書き入れた語が 本文と 同じ書き方（送りがなも同じ）なら ○。

海の水から塩へ

入れなくてよい 文 … ⑫

- ① 海べで 水を なめると、しょっぱい味がする。
- ② その味のもとが、水にとけているものである。
- ③ 海水を浅い池に引き入れ、広げてためる。
- ④ 池の底は平らにならし、深さをそろえておく。
- ⑤ 風に さらすと、水が 少しずつ 減っていく。
- ⑥ 水だけが空気中へ出ていき、とけていたものが残る。
- ⑦ 日光が、池の水をどんどん減らしていく。
- ⑧ 風が強い日ほど、水の減り方が早くなる。
- ⑨ やがて白いつぶが底にしずみ始める。
- ⑩ つぶを集めてかわかすと、料理に使う塩ができる。
- ⑪ にがりによばれる液も、このときに取り出される。
- ⑫ たとえば、しめった日が続くと作業は進まない。
- ⑬ 雨がふれば、ためた水はうすまってしまう。
- ⑭ 晴れた日が多い土地ほど、この方法に向いている。
- ⑮ 海に面した平らな所が、昔から作り場選ばれてきた。
- ⑯ きかいを使う今の工場でも、もとの考え方は同じである。
- ⑰ 海のめぐみが、毎日の食たくに運ばれている。

要約カード

海水

は、

日光

によって、

塩

になる。

□には、こうほから えらんだ 語を 左から 順に 入れる。

できあがる要約 … 海水は、日光によって、塩になる。

⑫は、しくみを くわしく 言いかえたり つけ足したり している 文だから。

まるつけの ポイント

3つの語が そろって 入っていれば ○。順番が ちがうと ×。

言いかえた語（「海水」を「水」など）は ×。本文の 書き方どおりに 写す。

型の 言葉と 語が 順に つながった 1文なら ○（句点まで 書く）。

⑫のように「たとえば」で はじまる 文は、くわしい 例や つけ足しなので 要約に 入れない。